

シャーブを買収した台湾企業の鴻海精密工業は、米国アップル社のiPhoneやiPadの金属製のケースを画期的な方法で加工することで、大きく業績を伸ばした。成形などの方法で薄板から箱形のケースを作ろうとすると、いくつもの工程が必要で時間とコストがかかる。ホンハは中国本土に作った大きな工場に高価なマシンングセンタを大量に並べて、厚みのあるアルミ板から切削加工の一種である削り出しという方法で、二四時間休みなくケースを生産することで、コストを格段に引き下げることになった。

なお、マシンングセンタの刃の位置を指定する、位置決めスイッチという加工上の要の部分<sup>かなが</sup>は、日本企業が製造している。メトロール（東京都立川市）である。質感、手ざわり、デザインなど品質にこだわるステイブ・ジョブズが率いたアップル社は、自社の製品の加工に使う位置決めスイッチはメトロール社製のものを使うように仕様書で指示している。もちろん、メトロールは日本を代表するGNT企業だ。

接合、bondingの代表は溶接である。異なる金属片の接合部に熱を加えて金属を溶かし、冷えて金属が固まることで金属同士を接合する方法である。スポット溶接といって、電気抵抗の熱により溶かす方法や、レーザー光を使って溶接する方法がある。日本の自動車メーカーはスポット溶接ロボットを駆使して、車体の主要な部分を「点」で溶接している。フォルクスワーゲンやアウディというドイツメーカーは、レーザー溶接機を使って、金属と金属の接合部を